

島根県海士町との交流について（案）

平成 26 年 8 月 12 日

趣 旨

地域再生につながる教育の先進モデルを実施している島根県立隠岐島前（どうぜん）高校が立地する海士町との交流を行い、子供たちの参画による全国・世界を見据えた地域復興の取組を推進する。具体的には、島前の生徒（隠岐島前高等学校地域創造コース 2 年生、学校設定科目「地域学」受講生）10 名程度の双葉郡訪問と、双葉郡の生徒（中高生）10 名程度の海士町訪問による相互交流を行い、下記の学びを実現する。

- 互いの地域に関わる取組みに対する想いを知ること、地域で学ぶ・地域に貢献する意義を再認識する。
- それぞれの地域での取組みの課題や工夫を知ること、自身の活動に還元する。
- 自身の知識経験を伝えるなど、相手のためになる形で使うことで学びの成果を実感する。

交流概要（案）

【島前から福島への訪問（3泊4日）】 実施時期：_____（未定）

1 日目 午後便で移動（島前～米子）

2 日目 移動（米子～福島）

双方の取組み紹介

島前高生、福島の生徒双方が取り組んでいる内容を発表し、地域活性への想いや将来の希望を共有する。

3 日目 現場訪問

福島の生徒が、島前の高校生に地元やそこでの取組みを紹介する。島前高生は、見学の中で自身の取組みに活かせるような内容をまとめて、福島の生徒に発表。

4 日目 移動（福島～島前）

【福島から島前への訪問（2泊3日）】 実施時期：_____（未定）

1 日目 移動（福島～島前）

歓迎会

2 日目 実践報告（島前高生より）

島前高生が地域学で実践した内容を発表し、学びを伝える。

フィールドワーク

島前高生は、これまでに学んだ内容を踏まえて実際に福島の生徒に島前を紹介する。

学びの共有

福島の生徒は福島との共通点・違いを探り、学びを島前高生にフィードバックする。

アウトプット&つながり続ける

2 回の交流を通しての気づきを双方の視点からまとめて、何か形に残るものを作る。今後もつながり続ける仕組みを考える。

3 日目 移動（島前～福島）